

## 平成26年度 第2回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部議事録

日 時 2月10日(火) 11:45~12:15

場 所 尼崎市役所北館4階 4-1会議室

出席者 20名

**座 長**：国による長期ビジョンと総合戦略が昨年末に策定された。それに従い尼崎市でも人口ビジョンと総合戦略を策定していくこととなる。その概略について、事務局から説明をお願いする。

・事務局より資料1、2について説明。

**委 員**：立地適正化については、スポットでなく全体像を示しこれを機会にこれまでやりたくてもやれなかったことに取り組むべきではないか。今後仕事をつくることや人が住むことを考えるにあたって、具体的な項目を整理する中で取り組むべきことを共有していきたい。

**座 長**：総合戦略にはこれまで踏み込みが足りなかった点もしっかりと位置付け、総合計画の取り組みを加速させていきたいと考えている。

**委 員**：土地利用を考えるにあたっては、活性化機構がすでに長い時間をかけて蓄積されたノウハウがあり、是非活かしていただきたい。

**座 長**：県の戦略策定はほぼ同時進行である。一方、国からはいくつか策定の条件が付されているため、その点を留意の上、作業の速度を上げていきたい。長期ビジョンの方向性としては、三大都市圏でありながら人口が減少している本市の現状を考え、出生率を引き上げていきたい。しかし、そのためには若い人たちが安定して子供を生み、育てられるまちづくりという意味で、所得についても考えなければならない。評価の指標としては、総合計画や施策評価で用いているものを中心に据えながら、足りないものを補っていく。

次に、地域住民生活等緊急支援のための交付金について、事務局から説明をお願いする。

・事務局より資料3について説明。

**座 長**：次年度以降の予算規模等に過度の期待は禁物だとは思いますが、国からの予算を上手に市の財源として使えるように準備しておく必要はある。地域の活性化等、我々なりの狙いや戦略を持って進めていきたい。

**委 員**：商店街の活性化は商業者だけでなく、地域で連携して支えていくような仕組みが必要と考える。

**委 員**：今回の交付金は商業者にとってどうなのか。

**委 員**：規模的にもあまり大きくなく、かつ準備が短期間であり、いかに滞りなく実施できるかが重要。

座長：交付金を用いたプレミアム商品券については、プレミアム分を除いた消費をどのように喚起するかが重要であると考えている。

委員：プレミアム商品券を発行しても、流通の仕組みを上手く作らないと、効果は出ないのではないか。

座長：プレミアム商品券については、大型スーパー等も対象となる予定であり、既存の商店街等にはメリットが少ないと予想される。

委員：一部の商店街では自ら金券を発行して成功しており、こうした事例を地道に広げることが大切ではないか。

委員：使用できる店舗を商店街等に限定すれば、それは可能かもしれないが、あまりにも時間が足りない。

委員：どのような施策にせよ、国から財源をもらって行う以上、どんな人が使うのか、どんな場所で使うのか等、きちんと評価をする必要がある。

座長：そもそもこの施策は、市民に商品券を購入してもらわないことには始まらない。そのためにもしっかりと情報提供を行い、特産品や地元の個性的な飲食店等、地元の「知る人ぞ知る」ところにスポットが当たるような取り組みを進めていきたいと考えている。

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

・事務局より資料4について説明。

座長：総合戦略については、本市の総合計画の主要取組項目を用いることなど、一定の方向性は見えてきている。国からも積極的な情報提供があるとのことで、それらを上手く総合戦略の策定に用いていきたい。

委員：次年度以降、総合戦略の実行に際しての財源については、国からの交付金を市とは別の財源として用意するのか、現在の市の財源と一本化するのか。

座長：一本化していくのもありだと考えているが、事務局としてはどうか。

事務局：国の来年度の交付金とも関係するが、おそらく交付税となるであろうことから一本化することになる。

座長：実際には別の財源を用意するものと市の財源と一本化するものと両方のパターンがあるのではないか。

委員：総合戦略は5か年の実施計画のようなものであり、毎年予算編成はそれを優先していくことになるのか。

座長：その通り。国の予算は単年度の措置であるが、総合戦略の主旨に合う事業であれば、一年でも国の財源を充てていきたい。

委員：借り入れという考えであれば、金融機関の協力も得られるのではないか。

座長：金融機関との協力もありえるだろうが、我々は地方創生の観点からどういう企業に貸し付けをすれば効果が大きいのか、地元金融機関とともに議論を進めていくことが大事ではないか。

**委員**：例えば子育て支援を民間企業が行うならば、その応援として貸し付けるという切り口もある。

**座長**：保育所の施設整備等、国からの補助以外に借入れを行うときに応援をするような施策もあると思われる。

以上、大変駆け足となったが、各局お気付きの点やアイデア、問題意識等があれば積極的に事務局へ連絡をお願いする。それでは、第2回ひと咲きまち咲きあまがさき創生本部を終了する。

以上